

事業区分	文化芸術事業		育成・創造事業				
事業名	とっどりの芸術宅配便		助成:文化庁				
目的・内容	県内の小中学校、特別支援学校等に県内のアーティストを講師として派遣し、鑑賞型、体験型の公演やワークショップ等を実施し、子どもや青少年の文化芸術体験の充実を図る。また、創造的な未来と次世代の育成のため、教育と交流の視点から基盤整備を図る。本事業を通じて、将来の芸術文化の担い手や鑑賞者を育成し、文化人口を拡大する。						
開催時期	平成22年6月～平成23年2月(67回実施)						
会場	県内小中学校、特別支援学校、公民館						
参加費	無料						
実施状況	総体験者数 8,113名						
事業費状況	予算額	収入	0円	支出	4,714,000円	収支比率	0%
	決算額	収入	0円	支出	3,990,043円	収支比率	0%
参加者アンケート(主なもの)	<p>[生徒]</p> <ul style="list-style-type: none"> 失敗しても頑張って取り組むことが大切だとわかりました。 音楽は誰にでも楽しめる良いものだと思います。また、いろんな音楽を聞いてみたいです。 演奏を生で聞くのは初めてだったので、今日の演奏は大切な思い出にしたいです。 <p>[先生]</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の心の成長に繋がられたと思います。 子どもたちは初めての体験でしたが、興味を持って取り組み、達成感を味わえたと思います。 子どもたちはまた新しい自分が発見できたのではないかと思います。 やはり本物を見る、聴くということは改めて大切なことだと感じました。 						
1次評価(内部)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度より体系化を図り、体験機会の提供に加え、未実施校へのアプローチや講師の外部研修、斡旋用パンフレット及び開発プログラムの作成などを進め、一定の成果を得ることができた。(未実施校での実施:22年度20校、21年度5校) 実施を通して講師と教員との新たな人間関係の広がりも見られ、適切な指導法について相談できる環境づくりの一端を担い、芸術の専門家から学校教諭への直接のアドバイスは非常に有効なものとなった。 可能な学校では保護者や地域住民の方々にも呼びかけ、子どもたちと一緒に鑑賞することで、ホールへ足を運ぶことが難しい方々への芸術鑑賞の場を提供し、文化芸術に対する興味関心を高める機会へと繋がった。 <p>[課題等]</p> <ul style="list-style-type: none"> まだまだプログラム内容には検討の余地がある。引き続き講師と学校教諭との連携は必要不可欠であり、教諭への意識改善、担当者のコーディネート力、講師のスキルアップなど、事業の質的向上を図っていかねばならない。 						
2次評価(財団評議員)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> 年々、事業の内容にも広がりが見られ、講師と児童の繋がりも含めて進化してきている。 未実施校の数を少なくすると同時に、各事業の内容の充実を図るといふふたつのテーマを着実に進めていると評価できる。 学校側との連携は良く取れている。学校側の要望を反映させ、プログラムの内容もきめ細やかであり、事前の準備も入念にできている。 <p>[課題等]</p> <ul style="list-style-type: none"> 1校1回という制限の意義や効果について、見直す時期が来ている。 改善点としては、地域住民を含めて、文化に接する機会をさらに増やしていくことが考えられる。 						
今後の対応、取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 各学校の規模や要望に沿ったプログラムを提供できるよう独自のプログラム内容で、質の高いものを提供していく必要がある。そのためにも、これからは講師・教諭・事業担当者との三者での打ち合わせを行い、同時に、事業担当者と指導者の研修を行い、コーディネート力の向上やレベルアップ・スキルアップを図り、今後の事業の質的向上や児童及び生徒の満足度を高めることに繋げていく。→実施中 引き続き未実施校へのアプローチや講師の補充、来年度から受託する芸術鑑賞教室(高校・特別支援学校、小学校を対象にプロの公演の鑑賞機会を提供)との棲み分けなどを検討していく。 一歩踏み込んだプログラム内容(音楽づくり、全体合奏、ジャンルを超えたコラボレーションなど)を取り入れた継続実施も検討していく。 						